（別紙）

御意見及びそれに対する考え方
（「種畜の等級の判定基準を定める等の件の一部を改正する告示案についての意見・情報の募集」の結果について）

御意見	考え方
【意見】 黒毛和牛の等級基準は、日本の誇りであり、文化的資産である 日本の和牛、特に黒毛和種の A5 等級は、単なる数値ではなく、長年にわたる生産者の技術、審美眼、そして消費者との信頼関係によって築かれてきた「文化的価値」を持つものです。霜降りの美しさ、脂の融点、肉質のきめ細やかさ、風味の奥行きなど、数値化しきれない要素が評価に含まれており、それが「A5」という記号に凝縮されています。このような価値を持つ基準を緩和することは、単に評価のハードルを下げるという技術的な問題にとどまらず、日本の食文化そのものの信頼性を揺るがす行為であると考えます。 生産者の努力が報われる仕組みを守るべき 和牛の生産には、長期間にわたる手間とコストがかかります。血統の選定、飼料の工夫、ストレスのない環境づくり、健康管理、肥育技術、これらすべてに心血を注いできた生産者が、ようやく手にするのが「A5」という評価です。その基準が緩和されれば、これまで A4 や B5 と評価されていた個体が A5 に繰り上がる可能性があり、本来の A5 と同等の努力をしていない個体が同じ評価を受けることになります。これは、真摯に取り組んできた生産者にとって大きな不利益であり、モチベーションの低下や品質低下を招くおそれがあります。 “和牛風”との区別がつかなくなるリスク すでに黒毛和牛の遺伝資源は海外に流出しており、アメリカやオーストラリアなどでは「Wagyu」や「American Wagyu」と称する牛肉が流通、他にも意図しない流出があります。これらは一部に和牛の血統を持つものの、飼育環境や肥育期間、飼料、格付け基準は日本とは大きく異なります。しかし、もし日本の等級基準が緩和されれば、「本物の和牛」と「和牛風」の境界が曖昧になり、消費者が区別できなくなるおそれがあります。これは、海外市場における日本産和牛の	頂いたご意見は、今回の種畜の等級の判定基準を定める等の件の一部を改正する告示案に直接関係するものではありませんが、今後の和牛振興の取組を推進するに当たっての参考とさせていただきます。

プレミアム性を損ない、価格競争に巻き込まれるリスクを高めます。 世界基準との整合性は「併記」によって対応すべき 　国際的な輸出拡大や整合性の観点から、世界基準を取り入れる必要性があることは理解します。しかし、それは日本の基準を「下げる」ことによってではなく、「併記」や「差別化」によって対応すべきです。たとえば、「J-A5（日本基準）」と「WQG: Excellent（世界基準）」のように、二重ラベル方式を導入することで、両者の基準を明確に示しつつ、消費者に選択の余地を与えることが可能です。これにより、日本の基準が世界基準を凌駕することを可視化し、むしろブランド力を高めることができます。 【要望】 　日本の和牛等級基準、特に A5 等級の基準を緩和しないでください。 　世界基準との整合性を図る場合は、日本独自の基準（J-A5 等）を明確に残し、世界基準と併記する「二重ラベル方式」を導入してください。 　生産者の努力が正当に評価され、報われる仕組みを守ってください。 　和牛風の海外産牛肉が「和牛」と誤認されることのないよう、日本の基準とブランドを明確に差別化する制度設計をお願いいたします。 　以上、和牛という日本の誇りを守り、真摯に取り組む生産者の努力が正当に評価される制度の維持・発展を心よりお願い申し上げます。	